

# News Letter



医療法人恭青会 理事長  
いくの眼科 院長  
**生野 恭司**

明けましておめでとうございます。

昨年は総選挙で与党が大敗北し、安倍元首相から始まる多くの政策の継続性に懸念が示されました。様々な主張を持つ少数勢力が重みを増し、先行きの混迷度が高くなったと言えなくもありません。社会保障と税制もいよいよ本格的な変革が始まりそうです。とてつもないスピードで変化する社会に対して、やみくもに不安を煽ったりするのではなく、両脚を地に着けて今日一日をしっかりと生きなければと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年度の社会保障関連の話題と言えば「保険証の廃止」と「医師の働き方改革」でした。マイナンバーカードとの一体化に伴い、12月2日をもって新規保険証の発行が停止されました。なりすまし受診の問題もありましたが、それ以上に各保険組合が発行するコストも小さくないでしょう。また、保険証番号をスタッフが手打ちでレセコンに入力するより、オンラインで読み込むほうが、今後の人手不足を考えると現実的です。労働環境改善の一環である「医師の働き方改革」は、割合準備と周知を行ってきた感がありますが、「保険証の廃止」は非常に唐突であったという感想は免れません。

2024年の後半には、割合重要な事項が議論されました。「後期高齢者の原則3割負担拡大」と「医師の偏在是正」です。ひっ迫する医療保険財政や定年延長から高齢者の負担を引き上げて生産年齢との不公平を是正するのはいずれ必定でした。また、地方における医師不足を是正するために、地方勤務の義務化など管理者要件を強化する。あるいは開業に際して必要な科目や診療内容について地域とすり合わせるなど、今までと比べて明らかに管理を強めていこうとしています。どちらも紆余曲折が予想され、早くても数年かかると思われますが、国としても、なりふり構っておられなくなり、さらに厳しい施策を打ってくるかもしれません。変化の多い医療業界ですが、地域医療に真摯に取り組み、皆様に安心していただける医療を提供してまいります。本年も引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



いくの眼科  
武庫之荘院 院長  
**大家 典子**

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支は巳年です。脱皮をする蛇のイメージから巳年は「復活と再生」を意味し、植物に種子ができはじめる時期、新しいことが始まる年とも解釈されるようです。皆様にとって本年も幸多き1年となりますよう心からお祈りいたします。

さて、2021年6月にリニューアルオープンしましたいくの眼科武庫之荘院は、開院3年半を迎えました。これもひとえにかかりつけ医として頼ってくださる患者さん、変わらず支えてくれるスタッフ、先生方のおかげです。心より感謝しております。

先日、尼崎市の3歳6カ月児健康診査で眼科診察をしたのですが、「開院の頃に誕生されたお子さんがもうこんなに大きく成長されて!」と、月日の流れの早さを感じました。

クリニックにもたくさんのお子さんが受診されますが、「実は私も目の調子でちょっと気になることがあって…検査するほうがいいですか?」「気になる症状があるけれど年齢のせいかしら?」と付き添いのお父さんやお母さん、おじいさん、おばあさんからご相談を受けることがあります。子育てや孫の世話、仕事、看病や介護で多忙なために自分のことが後回しになってしまいがちな方も、どうぞお気軽に眼の検査を受けていただきたいと思います。

本年もより一層、地域の皆様の眼の健康に貢献できますようスタッフ一同努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



なかやま形成外科  
美容クリニック 院長  
**中山 真紀**

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、昨年は多くの患者様にご来院いただき感謝申し上げます。

なかやま形成外科美容クリニックでは、形成外科専門医による保険診療を主軸に自費美容診療も行ってまいります。両者のメリットを活かしながら、患者様のご希望やライフスタイルに沿って治療方法を選択していただきます。特に美容診療に関しては、エイジングに対する考え方や価値観が人によって様々です。単に外見を若返らせることだけを目標とするのではなく、アンバランスにならないようできるだけ自然に整え、日々の生活をより良く過ごしていただくためのお手伝いできれば幸いです。

どちらの診療も安心・安全に受けていただけるよう、知識や技術をアップデートさせながら、患者様に寄り添い丁寧かつ迅速な対応を心がけております。

今後も患者様に当院を選んでいただけるようスタッフ一人ひとりが役割と責任を自覚し努力して参ります。本年も引き続きよろしくお願いいたします。

＼ 緑内障と寒さの意外な関係 ＼

# 冬の訪れと共に増える眼の疾患

## 急性緑内障発作の危険性

今回は「寒くなると増える眼科疾患」についてお話しします。眼科における季節性疾患の代表例としては、春季のアレルギー性結膜炎（花粉症）が挙げられます。もう一つ季節性のある病気として「緑内障」が代表例であることは眼科医の間で有名です。緑内障は眼圧の上昇によって進行する疾患で、大多数は慢性的な眼圧上昇に伴い、視野欠損がゆっくりと進行します。しかし、厄介なのは急激に眼圧が上昇する「急性緑内障発作」です。発作を起こすと眼圧が著しく上昇し、強い痛みや重度の視機能障害を起こし、最悪の場合、数日で失明します。

多くの研究で眼圧が冬季に上昇しやすいことが証明されており、この時期には緑内障手術が明らかに増加します。詳細なメカニズムはわかりませんが、寒気によって生じる血管や血圧変化が関与していると言われています。年末年始は気温がぐっと下がり、寒波に見舞われることも多く、急激な気温低下がさらに発作や進行のリスクを高めます。眼圧上昇に対しては薬剤治療、発作に対しては手術治療が必要となります。通常の緑内障発作であれば2、3日中に処置を行えば、後遺症を残さず治癒することも多々あります。このような背景から年末年始の眼科救急は大きな存在意義を持っており、発作の可能性を常に念頭に診療にあたっています。

## 急性緑内障発作の症状

- ✓ 目の痛み
- ✓ 目の充血
- ✓ 頭痛
- ✓ 吐き気
- ✓ 視界がよく霞む など



## 目の異常、見過ごさないために

緑内障発作は一時的に軽快することがあり、充血を伴うため、時に結膜炎と誤診されることもあります。


目の痛みや頭痛などのわかりやすい症状が出やすい一方で「眼の異常による症状」だと気付かれにくく、発見が遅れてしまうケースもよくあります。その為、眼科専門医による眼圧検査や細隙灯検査が必須です。

呼吸器感染症や心血管イベントが冬季に増加するように、寒気は眼球組織にも大きなストレスを与えます。最近では暖冬傾向が強まっているものの、それでも1月には本格的な寒さが訪れます。

皆様におかれましても、くれぐれもご自愛の上、お過ごしください。皆様の益々のご健康をお祈り申し上げ、本年もどうぞ恭青会をよろしくお願ひ申し上げます。

医療法人恭青会グループ  
<https://kyoseikai.com/>



 **いくの眼科**

<https://kyoseikai.com/ikuno-eye/>  
Tel. 06-6309-4930

 **いくの眼科 武庫之荘院**

<https://kyoseikai.com/mukonosou/>  
Tel. 06-6423-8871

 **なかやま形成外科  
美容クリニック**

<https://kyoseikai.com/nakayama-keisei/>  
Tel. 06-4950-7140

**LINE 公式アカウント**  
QRコードからお友達登録をお願いします

いくの眼科  
十三本院



いくの眼科  
武庫之荘院



なかやま形成外科  
美容クリニック



 @kyoseikai

 @nakayama\_clinic

 @kyoseikai.eye.doctor